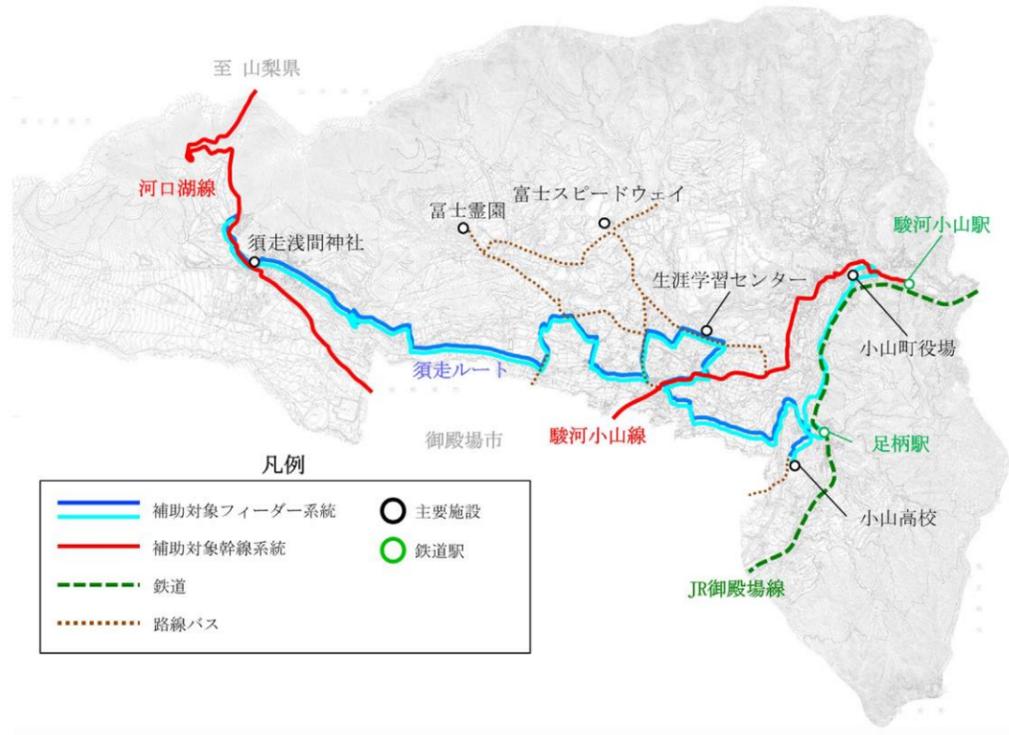
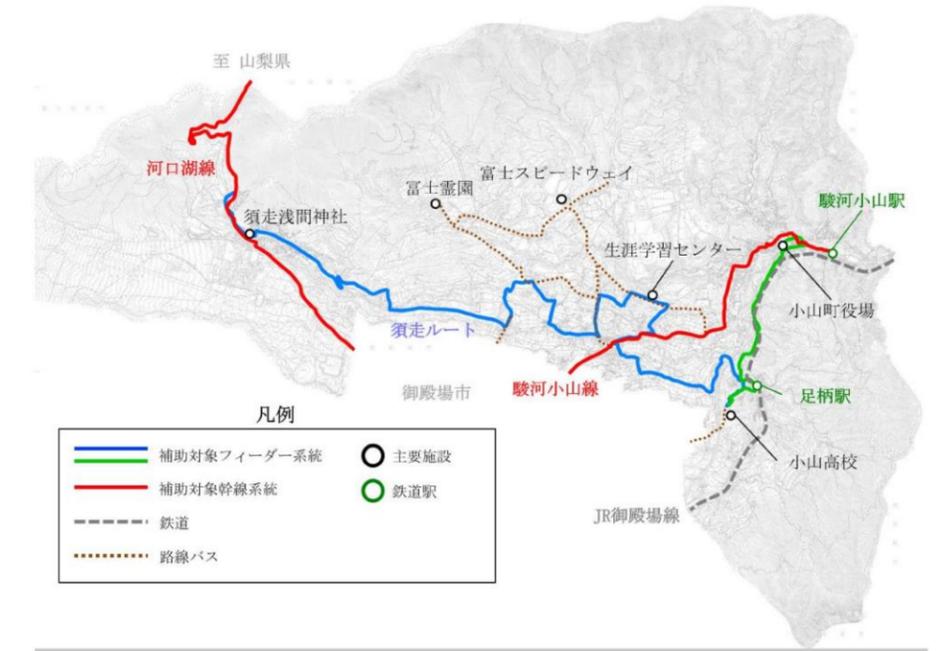


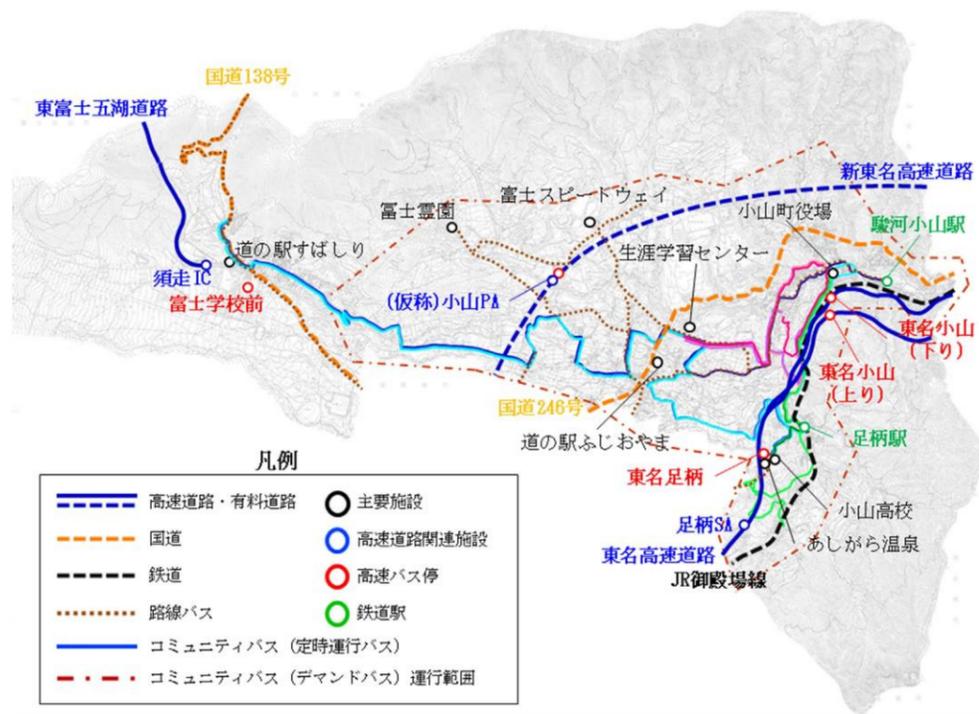
ページ	旧	新
表紙	<p data-bbox="617 520 1240 577">小山町地域公共交通計画</p> <p data-bbox="715 653 1145 695">(令和3年度～令和7年度)</p> <p data-bbox="807 1411 1047 1528">令和3年2月 小山町</p>	<p data-bbox="1881 520 2504 577">小山町地域公共交通計画</p> <p data-bbox="1979 653 2410 695">(令和3年度～令和7年度)</p> <p data-bbox="2027 1411 2353 1598">令和3年2月 令和6年1月改訂 小山町</p> <p data-bbox="2178 1755 2199 1776">1</p>
文言追記		

ページ	旧	新															
P 1 6 図の修正、地域内幹線等の位置づけ・補助系統に係る事業及び実施主体等の追記	<p> 運送負担額について昨年度と比較すると、約2,400万円の増加となっている。新しい運行形態に係る初期費用（バス停の新設、デマンドシステムの初期設定、車載器の整備など）と運行費用（デマンドシステム利用、オペレーター利用、車両リースなど）の増加に加え、運賃収入の伸び悩み等が主な要因となっている。利便性向上を図るための費用増であったが、このままの状況が続くと町の負担が増え続ける可能性が懸念される。運行の効率化とともに、利用実態に合わせた運送負担金の在り方・妥当性について検討する必要がある。 </p> <p> (3)補助対象系統 </p> <p> 定時運行バスの「須走ルート（朝・夕方）」については、地域間幹線系統である「駿河小山線」「河口湖線」と接続するフィーダー（支線）系統となっており、御殿場市や山梨方面への移動手段として大きな役割を担っている2系統に対し、両系統をつなぐ形で東西に伸びている。 </p> <p> 町民にとって、特に御殿場市は日常的な生活圏であるため、これらの系統の維持・活性化は重要な課題であり、その他の路線バスや鉄道のダイヤとの調整や、相乗効果を図る利用促進策の検討・実施が必要である。 </p> 	<p> 運送負担額について昨年度と比較すると、約2,400万円の増加となっている。新しい運行形態に係る初期費用（バス停の新設、デマンドシステムの初期設定、車載器の整備など）と運行費用（デマンドシステム利用、オペレーター利用、車両リースなど）の増加に加え、運賃収入の伸び悩み等が主な要因となっている。利便性向上を図るための費用増であったが、このままの状況が続くと町の負担が増え続ける可能性が懸念される。運行の効率化とともに、利用実態に合わせた運送負担金の在り方・妥当性について検討する必要がある。 </p> <p> (3)補助対象系統 </p>  <table border="1" data-bbox="1721 1323 2671 1743"> <thead> <tr> <th>位置づけ</th> <th>系統</th> <th>役割</th> <th>確保・維持策</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">地域内幹線</td> <td>駿河小山線（赤系統）</td> <td>駿河小山駅を拠点として御殿場市の拠点と連絡する</td> <td rowspan="2">地域公共交通確保維持事業（幹線補助）を活用し、交通事業者と協議の上、安定的な運行を確保する。</td> </tr> <tr> <td>河口湖線（赤系統）</td> <td>須走地区から山梨県富士河口湖町及び御殿場市の拠点と連絡する</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">支線</td> <td>須走ルート（朝・夕）（青系統）</td> <td rowspan="2">町内地域を運行し、軸となる幹線や駅、公共施設に接続する</td> <td rowspan="2">地域公共交通確保維持事業（フィーダー補助）を活用し、交通事業者と協議し、持続可能な運行を確保する。</td> </tr> <tr> <td>足柄ルート（夕）（緑系統）</td> </tr> </tbody> </table>	位置づけ	系統	役割	確保・維持策	地域内幹線	駿河小山線（赤系統）	駿河小山駅を拠点として御殿場市の拠点と連絡する	地域公共交通確保維持事業（幹線補助）を活用し、交通事業者と協議の上、安定的な運行を確保する。	河口湖線（赤系統）	須走地区から山梨県富士河口湖町及び御殿場市の拠点と連絡する	支線	須走ルート（朝・夕）（青系統）	町内地域を運行し、軸となる幹線や駅、公共施設に接続する	地域公共交通確保維持事業（フィーダー補助）を活用し、交通事業者と協議し、持続可能な運行を確保する。	足柄ルート（夕）（緑系統）
位置づけ	系統	役割	確保・維持策														
地域内幹線	駿河小山線（赤系統）	駿河小山駅を拠点として御殿場市の拠点と連絡する	地域公共交通確保維持事業（幹線補助）を活用し、交通事業者と協議の上、安定的な運行を確保する。														
	河口湖線（赤系統）	須走地区から山梨県富士河口湖町及び御殿場市の拠点と連絡する															
支線	須走ルート（朝・夕）（青系統）	町内地域を運行し、軸となる幹線や駅、公共施設に接続する	地域公共交通確保維持事業（フィーダー補助）を活用し、交通事業者と協議し、持続可能な運行を確保する。														
	足柄ルート（夕）（緑系統）																

ページ	旧	新																																
		<p>地域内幹線の駿河小山線は、駿河小山駅と御殿場駅を結び、通勤・通学、買物や通院等の日常生活に必要な交通手段としての役割を担っている。また、河口湖線は、御殿場駅と山梨県富士河口湖町を結ぶ路線であり、通勤・通学、買物や通院等の日常生活に必要な交通手段に加え、富士山周辺の観光を目的とした移動を担っている。</p> <p>両系統共に、各市町の拠点を結ぶ路線となっており、公共交通ネットワークを構築する上で特に重要な路線となっている。一方で事業者の運営努力のみでは路線維持が難しいため、地域公共交通確保維持事業により、運行を確保・維持する必要がある。</p> <p>支線系統の須走ルートは町内の東西、足柄ルートは南北に伸びており、公共施設や学校、病院等の生活必需施設を連絡する路線で地域の移動手段としての役割を担っており、須走ルートでは駿河小山線「佐野川」、河口湖線「須走浅間神社」と、足柄ルートでは駿河小山線「小山町健康福祉会館」「小山役場前」と接続することで広域移動を可能とし、地域内幹線系統を補完する欠かせない路線であるが、自治体の運営動力のみでは路線の維持が難しいため、地域公共交通確保維持事業により、運行を確保・維持する必要がある。</p> <p>○補助系統に係る事業及び実施主体</p> <table border="1" data-bbox="1724 947 2647 1415"> <thead> <tr> <th>系統名</th> <th>起点</th> <th>経由地</th> <th>終点</th> <th>事業許可区分</th> <th>運行形態</th> <th>事業主体</th> <th>補助事業の活用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>駿河小山線</td> <td rowspan="2">御殿場駅</td> <td>小山町健康福祉会館</td> <td>駿河小山駅</td> <td>4条乗合</td> <td rowspan="4">路線定期運行</td> <td rowspan="2">富士急モビリティ(株)</td> <td rowspan="4">幹線補助</td> </tr> <tr> <td>河口湖線</td> <td>須走浅間神社</td> <td>富士山駅</td> <td>4条乗合</td> </tr> <tr> <td>須走ルート</td> <td>紅富士台入口</td> <td>須走浅間神社</td> <td>小山高校</td> <td>4条乗合</td> <td rowspan="2">小山町(運行は富士急モビリティ(株))</td> <td rowspan="2">フィーダー補助</td> </tr> <tr> <td>足柄ルート</td> <td>小山高校</td> <td>小山町健康福祉会館</td> <td>小山役場前</td> <td>4条乗合</td> </tr> </tbody> </table>	系統名	起点	経由地	終点	事業許可区分	運行形態	事業主体	補助事業の活用	駿河小山線	御殿場駅	小山町健康福祉会館	駿河小山駅	4条乗合	路線定期運行	富士急モビリティ(株)	幹線補助	河口湖線	須走浅間神社	富士山駅	4条乗合	須走ルート	紅富士台入口	須走浅間神社	小山高校	4条乗合	小山町(運行は富士急モビリティ(株))	フィーダー補助	足柄ルート	小山高校	小山町健康福祉会館	小山役場前	4条乗合
系統名	起点	経由地	終点	事業許可区分	運行形態	事業主体	補助事業の活用																											
駿河小山線	御殿場駅	小山町健康福祉会館	駿河小山駅	4条乗合	路線定期運行	富士急モビリティ(株)	幹線補助																											
河口湖線		須走浅間神社	富士山駅	4条乗合																														
須走ルート	紅富士台入口	須走浅間神社	小山高校	4条乗合		小山町(運行は富士急モビリティ(株))		フィーダー補助																										
足柄ルート	小山高校	小山町健康福祉会館	小山役場前	4条乗合																														

5. 町内の公共交通の現状

本町における公共交通は、鉄道、高速バス、路線バス、コミュニティバスが主たるものとなっている。鉄道は、JR御殿場線が町東部を南北に縦断し「駿河小山駅」「足柄駅」の2駅が町内に存在する。高速バスは、東名高速道路沿いにある「東名小山」「東名足柄」と、富士学校前の計3箇所のバス停がある。路線バスは富士急モビリティ（株）によって御殿場市と結ぶ路線を中心に形成されている。広域の移動手段としては、鉄道、高速バス、路線バスが担っており、町内の移動についてはコミュニティバスの定時運行バス、デマンドバスが担っている。



5. 町内の公共交通の現状

本町における公共交通は、鉄道、高速バス、路線バス、コミュニティバスが主たるものとなっている。鉄道は、JR御殿場線が町東部を南北に縦断し「駿河小山駅」「足柄駅」の2駅が町内に存在する。高速バスは、東名高速道路沿いにある「東名小山」「東名足柄」と、富士学校前の計3箇所のバス停がある。路線バスは富士急モビリティ（株）によって御殿場市と結ぶ路線を中心に形成されている。広域の移動手段としては、鉄道、高速バス、路線バスが担っており、町内の移動についてはコミュニティバスの定時運行バス、デマンドバスが担っている。



データ取得方法の追記、指標（コミュニティバスの収支率）の追記

旧

IV. 目標指標と評価方法

基本方針に掲げた各取組の実現を目指し、数値目標を設定する。以下の目標値について、小山町地域公共交通会議において毎年効果検証を行うものとする。

指標名	基準値	達成目標	指標の説明
コミュニティバス 利用人数	28,380 人／年 (R1 年度)	30,000 人／年 (R7 年度)	コミュニティバスの年間利用人数（延べ）
デマンドバスの 平均乗車人数	—	1.5 人／運行 (R7 年度)	デマンドバス 1 運行当たりの平均乗車人数（年間の平均値）
デマンドバスの 稼働率	8.2% (R2 年度) *1	50.0% (R7 年度)	デマンドバス対応時間（全車）に対する実稼働時間の割合
一人当たりの コミュニティバス 運送負担金単価	4,833 円／人 (R2 年度)	3,500 円以下／人 (R7 年度)	町民一人当たりのコミュニティバス運送負担金
公共交通に対する 満足度	34.2% (R2 年度)	50.0% (R7 年度)	町民アンケート「快適な公共交通の整備に取り組んでいる」と回答する割合
路線バスの利用人数 *2	86,666 人 (R1 年度)	87,000 人 (R7 年度)	主要な路線（駿河小山線）の年間利用者数
鉄道の利用人数	837 人／日 (R1 年度)	900 人／日 (R7 年度)	J R 駿河小山駅と J R 足柄駅の 1 日当たりの平均乗車人数

*1 R2 年 4 月 1 日～9 月 30 日の実績

*2 バス年度（期間 10 月 1 日～9 月 30 日）

新

IV. 目標指標と評価方法

基本方針に掲げた各取組の実現を目指し、数値目標を設定する。以下の目標値について、小山町地域公共交通会議において毎年効果検証を行うものとする。

指標名	データ取得方法	基準値	達成目標	指標の説明
コミュニティバス 利用人数	事業者保有データ等より計測	28,380 人／年 (R1 年度)	30,000 人／年 (R7 年度)	コミュニティバスの年間利用人数（延べ）
デマンドバスの 平均乗車人数	デマンドバス管理システムより計測	—	1.5 人／運行 (R7 年度)	デマンドバス 1 運行当たりの平均乗車人数（年間の平均値）
デマンドバスの 稼働率	デマンドバス管理システムより計測	8.2% (R2 年度) *1	50.0% (R7 年度)	デマンドバス対応時間（全車）に対する実稼働時間の割合
一人当たりの コミュニティバス 運送負担金単価	一般会計決算額から計測	4,833 円／人 (R2 年度)	3,500 円以下 ／人 (R7 年度)	町民一人当たりのコミュニティバス運送負担金
公共交通に対する 満足度	町民意識調査から計測	34.2% (R2 年度)	50.0% (R7 年度)	町民アンケート「快適な公共交通の整備に取り組んでいる」と回答する割合
路線バスの利用人数*2	事業者保有データ等より計測	86,666 人 (R1 年度)	87,000 人 (R7 年度)	主要な路線（駿河小山線）の年間利用者数
コミュニティバスの収支率	事業者の実績報告から計測	3.71% (R2 年度)	10.00% (R7 年度)	運賃収入/運送負担金+設備経費 ※補助金等は除く
鉄道の利用人数	事業者保有データから計測	837 人／日 (R1 年度)	900 人／日 (R7 年度)	J R 駿河小山駅と J R 足柄駅の 1 日当たりの平均乗車人数

*1 R2 年 4 月 1 日～9 月 30 日の実績

*2 バス年度（期間 10 月 1 日～9 月 30 日）

ページ	旧	新																																																																																																								
P 5 0 年間大尉 の進捗管 理・評価ス ケジュー ルの追記		<p data-bbox="1724 346 2205 373" style="color: red;">＜年間単位の進捗管理、評価スケジュール＞</p> <table border="1" data-bbox="1724 411 2635 825"> <thead> <tr> <th></th> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> <th>8月</th> <th>9月</th> <th>10月</th> <th>11月</th> <th>12月</th> <th>1月</th> <th>2月</th> <th>3月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>公共交通会議</td> <td></td> <td></td> <td>①</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>②</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>主な行事</td> <td></td> <td></td> <td>★ 生活交通確保維持改善計画</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>★ 次年度予算要求</td> <td></td> <td></td> <td>★ 第三者評価委員会</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実施すること</td> <td></td> <td></td> <td>● 各地区からの要望提出</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>● 各学校の要望調査</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>前年度事業評価に 基づく改善と反映</td> <td></td> <td></td> <td>次年度事業計画の検討</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>今年度事業の検証</td> <td></td> <td>次年度の準備</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>C</td> <td></td> <td></td> <td>P</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>C</td> <td></td> <td>A</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>データ分析・ヒアリング（随時）</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>C</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>事業実施</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>D</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>次年度へ</td> </tr> </tbody> </table>		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	公共交通会議			①							②			主な行事			★ 生活交通確保維持改善計画					★ 次年度予算要求			★ 第三者評価委員会		実施すること			● 各地区からの要望提出					● 各学校の要望調査								前年度事業評価に 基づく改善と反映			次年度事業計画の検討				今年度事業の検証		次年度の準備				C			P				C		A				データ分析・ヒアリング（随時）					C								事業実施					D				次年度へ
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月																																																																																														
公共交通会議			①							②																																																																																																
主な行事			★ 生活交通確保維持改善計画					★ 次年度予算要求			★ 第三者評価委員会																																																																																															
実施すること			● 各地区からの要望提出					● 各学校の要望調査																																																																																																		
			前年度事業評価に 基づく改善と反映			次年度事業計画の検討				今年度事業の検証		次年度の準備																																																																																														
			C			P				C		A																																																																																														
			データ分析・ヒアリング（随時）					C																																																																																																		
			事業実施					D				次年度へ																																																																																														